常呂小学校校庭にあるシダレヤナギの思い出

「あのころの思い出」（抜粋）　寺町武
「常呂小学校80周年のあゆみ」掲載

（略）私たちは日支事変の起こる前の昭和11年の入学で、第６学年の時に国民学校に変わり、その年の暮れに大東亜戦争が起こり、本当に戦争に縁があった感じです。
現在、懐かしいものは校舎前の柳の木で、生徒玄関の脇に直径20センチくらいで、朝夕枝先を引いていたずらしたものです。それは今（注：昭和50年）では60センチくらいに生長しているように思います。（略）

「開校記念日によせて」（抜粋）　松平和子
「常呂小学校80周年のあゆみ」掲載

私が卒業（昭和22年）し、また私の子どもが卒業した常呂小学校に今なお私たちを見つめ、語りかけてくれるものがたった1つあります。それは柳の木（シダレヤナギ）です。幾星霜風雪に耐えながら大木となり、今なお玄関前に立っている柳の木です。
当時は生徒玄関の前にあり、ある時は雨の中で語りかけ、ある時は泣きじゃくる子を支え、またある朝は遅刻して走ってくる子を見つめ、また雪の日は肩をすぼめて自然に逆らわず、やさしく強くと無言で常呂小学校の校風を示しているかのように立ち続け、今なお子どもたちの巣立ちをやさしく見守って語りかけております。（略）

「特集２　シダレヤナギ」（抜粋）
「常呂小学校百周年記念誌」掲載

常呂小学校には「主（ぬし）」がいる。校庭に生えているシダレヤナギがそれだ。この百年の間につぎつぎと人も校舎もみんな変わってしまった。しかし、このシダレヤナギだけは、いつまでも変わらず、子どもたちの遊ぶ姿や学校のようすを見守ってきたのだ。
もし、私どもにシダレヤナギの話を聞くことができるのなら、このシダレヤナギはどんな思い出を語ってくれるだろうか。ぜひ一度聞いてみたいものである。
それは当人たちもとっくに忘れてしまったいろいろなことが山ほどあって、いつまで聞いても聞き飽きないことであろう。
ある卒業生が「しばらくぶりに常呂に帰ってきて、シダレヤナギを見てようやく、ああ常呂、そして常呂小学校に帰ってきたんだと実感できた」と語ってくれたことがあった。
この意味でシダレヤナギは「故郷の木」でもあり、灯台みたいなものでもある。卒業生にとってはいつまでも変わらない常呂町のシンボルでもあるのだろう。（略）

＊注：平成６・７年の２ヶ年にわたり、シダレヤナギは、常呂小学校百周年記念事業の一環として、樹木医による再生治療を行いました。
＊注：「特集２　シダレヤナギ」を掲載しているページには、推定の樹齢を135年、常呂町への入植が始まる前から生きてきた木と紹介しています。
常呂小学校百周年は平成７年（１９９５年）なので、135年前は江戸時代末期（１８

６０年）です。

注：常呂小学校が現在地に建設・落成したのは大正６年５月（１９１７年）。

その前は、明治35年（１９０１年）に校舎が建設された土佐地区にありました。

注：「常呂小学校沿革誌」には次のような記載があります

＊明治44年10月、東宮殿下本道行啓記念として校地に落葉松及び桜50本を植え付け

＊大正７年５月、元の学校から落葉松、桜など46本を校地の周辺に移植

大正８年７月15日、校舎新築落成式

注：昭和59年に、この校舎移転を体験した高齢者（大島みよ・横畠綾子：どちらも旧姓）２人が残した聞き書きがあり、土佐から現在地に校舎が移転した時にシダレヤナギやハルニレ、桜の木などを元の学校から持ってきて植樹したことを証言しており、沿革誌の内容と一部が一致します。

＊以上の資料から、現在、保存樹木となっている「シダレヤナギ」と「ハルニレ」は、土佐に学校があった明治35年から明治44年の間に植えられ、校舎移転時に行啓記念の落葉松や桜とともに移植されたと推測されます。

＊注：学校木「シダレヤナギ」と校地西側にある「ハルニレ」の木は、平成21年４月１日に北見市から保存樹木として指定されました。